

2025 | プレイベント
5 | 31 | 土

11:00~18:00

(開場時間同じ)

会場：エル・パーク仙台
6階 ギャラリーホール

手話通訳あり・要約筆記あり

申込不要
資料代
500円

これまでエトセトラ(その他)とされてきた女性やフェミニストの声を届ける出版社・エトセトラブックス代表の松尾亜紀子さんをゲストにお迎えし、フェミニズムのさまざまな形についてともに考える一日にしましょう！

展示&選書コーナー



●展示
(エトセトラ)(わたしの性と生)をテーマにした作品の展示や、グッズの販売を行います。
(参加団体: AROW, 22:22, 建築ダウナーズ, 行動フェス, SOSHIREN, でもらう!, 朝鮮学校とつながる会IO(イオ), フェミニスト手芸グループ山姥, she-sow)



●選書コーナー・フフフBOOKS
feminism, freedom, fight, friend, futureなど、Fで始まる言葉にちなんで読むと心がフツと軽くなり、フフフと声に出したくなるような本を紹介します。
(選書メンバー・松尾亜紀子さん、大橋由香子さん、イベント協力団体の皆さん)



5/31・6/15 両日開催
高橋美香写真展
『パレスチナで生きる女性たち』
企画: パレスチナ・オリーブ



11:00 OPEN

展示・選書・物販・ドリンクコーナーなど、トークの前後の時間をごゆっくりとお楽しみください。



14:30~16:00

松尾亜紀子さんトーク

松尾亜紀子(まつお・あきこ)
1977年長崎生まれ。フェミニスト出版社「エトセトラブックス」代表・編集者。雑誌「エトセトラ」や、フェミニズムやジェンダーに関する書籍を刊行。既刊『小山さんノート』『部落フェミニズム』他。2021年フェミニズム書を集めた同名書店をオープン。「フラワーデモ」「私のからだデモ」発起人のひとり。
<https://etcbooks.co.jp/>



(c) SAMSON YEE

16:15~17:00

フリートーク

~松尾さんを囲んで~

18:00 CLOSE

とされてきた無数の声を聞く

エトセトラ(その他)

優生保護法裁判 最高裁勝訴から一年

「わたしの性と生を

わたしのこの手に」



1948年に優生保護法が成立して以来、多くの人を取り返しのつかない被害を与えられ、障害を理由にした強制不妊手術と人工妊娠中絶の数は、記録に残っているだけで84,000人にもなります。
2018年に仙台で始まった優生保護法裁判は、その後全国に広がり、不可能といわれながらも大きな闘いとなりました。
そして2024年7月3日にはついに、法律が違憲であること、さらに国に賠償を求める判決を最高裁で勝ち取りました。
被害者とともに伴走して来たわたしたちは、この歴史的な勝訴から一年を迎えるにあたって、優生保護法という人権侵害が長年放置され続けたことと向き合い、あらためて「SRHR:セクシャルリプロダクティブヘルス/ライツ 性と生殖に関する健康と権利」を理解し、考える機会をつくります。

13:00~14:30

大橋由香子さんトーク 「SRHRってなに？」



大橋由香子(おおはし・ゆかこ)
ライター・編集者 著書『翻訳する女たち』『満心愛の人』、共編著『わたしたちの中絶』『福島原発事故と女たち』『記憶のキャッチボール』他。
「SOSHIREN女(わたし)のからだから」「優生手術に対する謝罪を求める会」メンバー。「優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会(優生連)」共同代表の一人。

14:45~16:00

リレートーク

優生保護法 被害者・家族
旧優生保護法仙台弁護士団 団長 新里宏二弁護士



オンライン参加・要申込

6/15のみオンライン配信あり
下記のリンクまたはQRコードからお申し込みください
*申込締切 6/14(土)21:00

<https://forms.gle/L26X7283oHp5w3ucA>



申込不要
資料代
500円

2025 | 6 | 15 | 日

13:00~16:00

(開場12:30)

会場：エル・パーク仙台
5階 セミナーホール

手話通訳あり・要約筆記あり